

高校シラバス細案

1. G l o b e 研究仮説について

(ア) 研究仮説

研究仮説は以下の通り。

「国際教育を中核とした新教科『グローブ (G l o b e)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法を体系的に構築することで、自国の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣を持つ人々と共に生きていく (多文化共生) のための資質・能力を育成することができる。」

(イ) 仮説の整理

- ① 手段：新教科『グローブ (G l o b e)』を包括的に創設する。
- ② 成果：成果 1) 自国の歴史・文化に対する造詣が深まる
成果 2) 異文化に対する理解が深まる
成果 3) 多文化共生のための資質・能力が育成される
- ③ 各成果の目的

上記の成果 1) と成果 2) が土台となって成果 3) が期待されるようになる。成果 1)、成果 2) と成果 3) の関係性や目的を再度整理する。

i) なぜ成果 1) があげられることで成果 3) を期待できるようになるのか

日本人、そして上川地方で生まれ育った一人の人間としてのアイデンティティを確立することで、生まれ育った地域や文化を大切に思う気持ちが醸成される。この郷土愛の感性を持つことにより、異文化の人々がそれぞれ自身の歴史・文化に対して誇りや愛着を抱く気持ちに共感を寄せられるようになる。

成果 1) の目的：自国・自地域に対する愛着の形成とそれに基づく共感力の獲得

ii) なぜ成果 2) があげられることで成果 3) を期待できるようになるのか

異文化を理解することで偏見や誤解を回避し、公平・公正な態度と見方で世界の人々や文化、出来事と向き合うことができる。これにより多様な国や文化出身の人々との関係構築が容易になり、より豊かで建設的な意見交換や交流活動、協働的な取り組みができるようになる。

成果 2) の目的：偏見や誤解のない多文化共生のための関係構築

iii) 成果 3) があげられることで何が期待できるようになるのか

情報と人がボーダレスに移動する時代となり、国境を越える物資や資金が今後いっそう増加する中で、問題や課題の解決、もしくは新たな価値の創造といった取り組みは、限られた環境内でなされるものではない。文化芸術、科学技術、政治経済など、あらゆる分野においてグローバルな活動が増えていく中で、多文化共生のための資質・能力は他者や社会とより主体的でより建設的な関わりを持つ上で不可欠である。

また、英語という言語を通してつながる世界が拡充していく潮流に大きな変更は起きそうにない。多文化共生のための関係構築を目指すにあたり、一定程度の英語運用能力は社会参画の基本的な資格となっていく可能性が高い。

成果 3) の期待：ボーダレスな社会活動に対する主体的参画のための資格獲得

2. G l o b e シラバスの概要

(ア) 基本的な区分

以下のような区分としたい。なお、以下の区分は大まかなものとしての位置づけであり、学習の進捗や内容、あるいは学校行事との関わりの中で順序の前後や混在があるものとする。

第Ⅰ期：基礎英語力充実期

第Ⅱ期：グローブのための基礎養成期

第Ⅲ期：関係構築と情報交換期

第Ⅳ期：社会参画準備期

(イ) 各区分の取り組みとねらい

① 第Ⅰ期：基礎英語力充実期

中学校時代で英語を苦手とする生徒が多くいるため、中学校英語の復習を中心に基礎学力を養成し、コミュニケーション能力の土台を形成する。この時に、コミュニケーション手段としての位置づけを意識した英語教育を推進するものとする。

② 第Ⅱ期：グローブのための基礎養成期

教科書との関わりから始めて、『基本情報→発展的内容』の組み合わせで自国や自地域も含めた多様な社会や文化の基本情報と一般的な考え方を学習する。ここでの『一般的な考え方』とは、国際社会的も含め、一般に認知されている情報としての『考え方』にとどまらず、考える方法、すなわち『問題・課題の発見→調査・分析・検討→意見や案の産出』という思考形式としての『考え方』をも育成することを視野に入れるものとする。

③ 第Ⅲ期：関係構築と情報交換期

コミュニケーションの目的は大きく2つあると考える。一つはコミュニティ形成を目的とした関係構築である。この場合のコミュニケーションは、情報内容そのものよりも自己開示や相互理解という行為自体に重点が置かれる。そしてその結果、コミュニケーションを取る両者が互いに個人レベルで情緒的な関係性を形成することが目指される。

もう一つのコミュニケーションは、伝達される情報自体に価値が置かれる合目的型のコミュニケーションである。論文やプレゼンテーション、あるいはインタビューや討論など、伝えるべき内容を簡潔・明瞭かつ論理的に述べる、表現上のある『型』が重要になる領域と言っている。

この両スタイルのコミュニケーション様式は時に別々に、時に混在して現れるが、指導場面としてはそれぞれ異なるスキルとして学習させたい。

④ 第Ⅳ期：社会参画準備期

第Ⅰ期から第Ⅲ期の間で学習したことを生かしつつ、生徒たちが高校卒業後に直面するだろう実際の場面を想定して、いかに主体的に社会参画できるかをテーマとした学習を行うものとする。この際、国際的な協力関係の構築という一面は意識しつつも、軸足としては生徒の主体性により重きを置きたい。すなわち、これまでの学習で社会的な問題・課題の概要を理解した上で、自分自身がどのように行動できるか、行動すべきか、行動したいかを考えさえる場とすることで、仮説に包含される成果3)を達成することを目指したい。

3. シラバス案

【記載方法】

- 期（Ⅰ～Ⅳ）、学習内容、学習するコミュニケーション様式（文法事項や特定表現など）、「ローカル」に分類されるテーマ（「L:」の形で記載）および「グローバル」に分類されるテーマ（「G:」の形で記載）、そして配分する単位数の5つの項目で記載した。
- 中学校の復習は、その後に習うコミュニケーション英語の文法事項および生徒に取り組ませたい活動に対応する配列とした。
- 以下の例に従って略した記載をした。
例) 英語コミュニケーションⅠのレッスン1：EC-1/L1
- 「コミュニケーション」及び「ローカル/グローバル」の欄内に、その活動が「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「学びに向かう人間性」のいずれの観点につながるのかを適宜記載した。記載方法はそれぞれ【知】、【思】、【人】とした。

【1学年】

期	内 容	コミュニケーション	ローカル/グローバル	単位
I	中学校の復習1	be 動詞・一般動詞 疑問文【知】	—	6
II	EC-I/L1 慶良間諸島の海	be 動詞の文と一般動詞の文【知】	L：慶良間諸島の海について知る【知】	7
III	G l o b e 1 自分の地域の誇れるものを見つける	【情報交換】 Our town is/has ~ など 【知】【思】	L：東川町の誇りといえるものについて考える【思】【人】	1
I	中学校の復習2	進行形【知】	—	1
II	EC-I/L2 クールジャパン	Yes/No 疑問文 進行形【知】	L + G：海外からの目に、何が日本独特と映るのかを知る【知】	7
III	G l o b e 2 海外から見た日本・東川を知る	【関係構築】 because ~ 【知】【思】	L + G：海外からの人に、日本や東川について独特であると印象を受けたものを教えてもらう【知】【人】	1
I	中学校の復習	過去形、助動詞【知】	—	2
II	EC-I/L3 メキシコ料理	過去形 助動詞【知】	G：海外の料理について知る【知】	8
III	G l o b e 3 食べ物から見る文化の違いを知る	【関係構築】 We eat/grow など 【知】【思】	L + G：日本と海外双方で、食べ物と文化がどのようなつながりを持っているのか考える【知】【思】【人】	1
I	中学校の復習	助動詞【知】	—	1

1年次時数小計/総計：35/35

期	内 容	コミュニケーション	ローカル／グローバル	単位
I	中学校の復習	基本 5 文型【知】	—	5
II	EC-I/L4 オリンピック	I think that ~ 第 4・5 文型【知】	G：近代オリンピックの始まりと、 パラリンピックの取り組みについて知る【知】	8
I	中学校の復習	不定詞【知】	—	3
II	EC-I/L5 マダガスカル島のバ オバブ	不定詞【知】	G：マダガスカル島のバオバブを取 り巻く現状について知る【知】	8
III	G l o b e 4 自然環境の保護につ いて学ぶ	【情報交換】 We can do something to protect nature など【知】	G：世界の自然環境保護について学 ぶ【知】【思】 L：東川および北海道・日本の自然 保護について学ぶ【知】【思】【人】	2
I	中学校の復習	動名詞【知】	—	1
II	EC-I/L6 江戸時代の歯ブラシ	動名詞【知】	L：江戸時代の文化・風習について 知る【知】	8
I	中学校の復習	完了形【知】	—	3
II	EC-I/L7 マチュピチュ	完了形【知】	G：古代遺跡について知る【知】	9
I	中学校の復習	受動態【知】	—	2
II	EC-I/L8 モタラと地雷	受動態【知】	G：地雷の被害について知る 【知】【思】	9
III	G l o b e 5 地雷の被害について 学ぶ	【情報交換】 英文記事の読み取り	G：地雷の被害について深く知る L：日本の地雷除去の国際貢献につ いて知る【知】【思】【人】	1
I	中学校の復習	関係代名詞【知】	—	8
II	EC-I/L9 ディック・ブルーナ	関係代名詞【知】	G：ミッフィーの歴史と貢献につ いて知る【知】【思】	8
II	EC-I/L10 偉大なピアニスト： 辻井伸行	関係副詞 It ~ to ~ 構文【知】	L：辻井氏の、自身の障害とピアノ との向き合い方について知る 【知】【思】【人】	9
III	G l o b e 6 福祉について考える	【関係構築】 【知】【思】	L：町内の福祉施設見学を振り返 り、福祉を受ける人の気持ちを考 えるとともに、よりよい福祉のあり 方を考える【知】【思】【人】	1
I	文法事項のまとめ	関係詞の復習【知】	—	2

1 年次時数小計/総計：82/117

期	内 容	コミュニケーション	ローカル/グローバル	単位
II	EC-I/L11 自然からのアイデア	分詞構文【知】	L + G : 身近なもので、自然界からヒントを得ているものについて考える【知】【思】【人】	10
I	文法事項のまとめ*	既習事項の確認【知】	英検 IBA の受験	3
III	他校生との交流*	【関係構築】 【思】	L + G : 台湾、ラトビアその他の留学生および町内の小中学生との交流活動【知】【思】【人】	6
III	言語活動 1 *	【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】	G : ALT または CIR に対するインタビュー活動【知】【思】【人】	6
III	言語活動 2 *	【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】	G : ALT による文化、歴史的な内容の文章の読解【知】【思】【人】	8

1 年次時数小計/総計 : 33/150

「*」印のついた活動は年度の中で適宜時期を見計らって行うものとする。

【第 2 学年】

期	内 容	コミュニケーション	ローカル/グローバル	単位
III	自己紹介活動	【関係構築】 【思】	L : 過去 1 年間の取り組みに基づく英語による自己開示活動【思】【人】	2
II	EC-I/L12 スティーブ ジョブズ	仮定法【知】	G : スティーブ・ジョブズの創造性の源について考える【思】【人】	12
IV	G l o b e 7 課題発見と創造的解決	In my opinion This is how ~ 【知】	L + G : レッスン 11 および 12 をうけて、日常生活や地域、あるいは世界規模で何か課題を発見し、それに向けて解決の提案をする【思】【人】	4
II	EC-I/Enjoy Reading 星の王子様	物語文の文章構成 【知】【思】	L + G : 文学作品を通して人生に対するものの見方を振り返る【思】【人】	8
III	G l o b e 8 日本の作品を英訳してみる	英作文 【関係構築】	L : 日本固有の物語とそのメッセージを英語で発表する【知】【思】【人】	3
I	中学校の復習	間接疑問【知】	—	2
II	EC- II /L1 世界の朝食	間接疑問【知】	G : ベトナム、ブラジル、ドイツの朝食について知る【知】	9

2 年次時数小計/総計 : 40/40

期	内 容	コミュニケーション	ローカル／グローバル	単位
II	G l o b e 9 朝食と地理を結び付けて考える	因果関係の説明【知】【思】	L：北海道や日本の地形、土壌、気候などと農作物との関係を学ぶ G：上記の基づき、世界各地の地理的要因と農作物との関係を探る 【知】【思】	2
I	中学校の復習	比較表現【知】	—	2
II	EC-II/L2 アイルランド	比較表現【知】	G：アイルランドの文化について学ぶ【知】	9
III	G l o b e 10 紹介文について考える	Let me introduce my Country 他【知】 【情報交換】	L：東川、東神楽、旭川の英語ガイドを読んで、自分の暮らす地域が英語を通してどのように説明されているかを知る。これを通して東川高校の紹介文を英語で作成してみる。 【思】【人】	4
I	中学校の復習	分詞の形容詞的用法【知】	—	2
II	EC-II/L3 さかなクンの国鱒の発見	分詞の形容詞的用法 be believed to do -er than any other ~【知】	L：国鱒の発見とさかなクンの学びの姿勢とのつながりに気づく 【思】【人】	11
IV	G l o b e 11 学びがどのように生きるのか	予想・可能性を述べる文章構成【知】【思】	L + G：さまざまな人の成果が、どのような学びからもたらされたかについて学ぶ【知】【思】 L：自分がどのような学びの積み重ねが出来るかを考える【思】【人】	2
I	中学校の復習	S V O C【知】	—	1
II	EC-II/L4 ノーベル賞のエピソード	知覚動詞構文 V + O + to do【知】	G：ノーベル賞にまつわる様々なエピソードを知る【知】	9
II	EC-II/L5 ツタンカーメンの墓にまつわること	使役動詞 関係代名詞 what【知】	G：ツタンカーメンの墓にまつわるエピソードを知る【知】	9
I	文法の復習	知覚動詞構文 V + O + to do 使役動詞【知】	—	3
II	EC-II/L6 ユニークな国々	疑問詞 + to do It seems that ~【知】	G：バチカン市国、ナウル共和国など、世界の特徴的な国について知る【知】	8

2年次時数小計/総計：61/101

期	内 容	コミュニケーション	ローカル/グローバル	単位
III	G l o b e 12	情報伝達の文章構成 【知】【思】 【情報交換】	L：道内市町村の土地面積や産業などについて調べ、発表しあう 【思】【人】	2
I	中学校の復習	現在完了 It ~ to ~ 構文【知】	—	2
II	EC-II/L7 ガラパゴス諸島	現在完了進行形 形式目的語構文【知】	G：ガラパゴス諸島の環境保護について知る【知】	9
IV	G l o b e 13	意見文の文章構成 【知】【思】	G：日本や世界全体でどのように生態系が保護されたり、あるいは危機に晒されたりしているのかを知る 【知】【思】 L：上記に基づき、自分がクラス地域の環境保護に向けどのような主体的取り組みができるのか考える 【思】【人】	4
I	文法事項のまとめ*	既習事項の確認【知】	英検 IBA の受験	3
I	商業英検対策*	既習事項の確認【知】	—	13
III	他校生との交流*	【関係構築】 【思】	L + G：台湾、ラトビアその他の留学生および町内の小中学生との交流活動【知】【思】【人】	4
III	言語活動*	【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】	G：ALT による文化、歴史的な内容の文章の読解【知】【思】【人】	4
III	G l o b e 16*	【関係構築】 【情報伝達】 【知】【思】【人】	L + G：見学旅行先で出会う海外観光客と交流し、互いの故郷について情報交換しあう【知】【思】【人】	8

2 年次時数小計/総計：49/150

「*」印のついた活動は年度の中で適宜時期を見計らって行うものとする。

【第3学年】

期	内 容	コミュニケーション	ローカル/グローバル	単位
III	自己開示活動 将来の夢は	【関係構築】 【思】	L: 過去2年間の取り組みに基づく 英語による自己開示活動【思】【人】	2
I	中学校の復習	否定表現 助動詞 受動態【知】	—	2
II	EC-II/L8 書道の歴史と挑戦	部分否定 助動詞+受動態【知】	L: 書道の歴史と現在の取り組みに ついて知る【知】	10
II	G l o b e 14	理由や要点を踏まえつつ 感想を述べる【知】【思】	L: 書道の様々な形式や取り組みに ついて知る【知】【思】	1
III	G l o b e 15	新たな視点を提示する説 明文の文章構成 譲歩【知】【思】	L: ステレオタイプに陥らない日本 文化の新たな魅力を再発見し、海外 の人に伝える【知】【思】【人】	2
I	文法の研究	様々な否定表現【知】	—	2
I	中学校の復習	関係代名詞 現在完了【知】	—	4
II	EC-II/L9 水族館の歴史	関係代名詞の非制限用法 完了形の受動態【知】	L: 日本の水族館の歴史について知 る【知】	10
II	EC-II/L10 友好の歴史	過去完了 強調構文【知】	L+G: 日本とトルコの友好の歴史 について知る【知】	10
II	G l o b e 16	歴史的経緯を伝える内容 の文章構成【知】	L+G: トルコ以外で友好の歴史が ある外国について知り、それについ て発表しあう【知】【思】【人】	3
I	文法の研究	各種特殊構文【知】	—	3
II	EC-II/Enjoy Reading チャーリーとチョコ レート工場	物語文の文章構成 【知】【思】	L+G: 文学作品を通して人生に対 するものの見方を振り返る 【思】【人】	10
III	他校生との交流*	【関係構築】 【思】	L+G: 台湾、ラトビアその他の留 学生および町内の小中学生との交 流活動【知】【思】【人】	4
III	言語活動*	【関係構築】 【情報獲得】【知】【思】	G: ALT による文化、歴史的な内容 の文章の読解【知】【思】【人】	4

3年次時数小計/総計: 68/68

期	内 容	コミュニケーション	ローカル／グローバル	単位
IV	G l o b e 17* 自己開示から関係構築へ	自己開示のための諸表現 【知】【思】	L + G : 同僚として、あるいは顧客として海外出身の人とどのように関係構築をしていくか考える 【知】【思】【人】	10
IV	G l o b e 18* 根拠を持って意見を述べる	意見文の文章構成 【知】【思】	L + G : 社会で起きている様々な出来事に対し、根拠を持って説得力のある意見の述べ方を考える 【知】【思】【人】	10
IV	G l o b e 19* 問題・課題を発見して協働的活動の中から解決策を考え出す	課題発見の思考法 【知】【思】【人】	L + G : 社会の様々な問題・課題に対し、多様な観点からテーマに対して考察を深め、解決策を案出しようとする 【知】【思】【人】	10

3年次時数小計/総計：30/98

「*」印のついた活動は年度の中で適宜時期を見計らって行うものとする。